



公益財団法人 僧月性顕彰会 第22回 月性追慕記念行事



日時 令和 4年 10月 23日 (日) 13:30~15:30

会場 妙円寺 (柳井市遠崎729) 入場無料 電話申込順 定員 100 名様

※ 申込受付開始 10月11日 午前10時より [下記へ](#)

第I部 アトラクション〔剣舞&詩吟〕 13:30

▶ 剣舞 (地元小学生) 詩吟 (柳井吟剣詩舞道連盟 代表者3名)

第II部 講演 京都女子大学名誉教授 愛甲 弘志 先生 14:00

柳井津の豪商高田家&遠崎の大庄屋秋元家との 月性の関わりについて、**新たな発見あり!**

~ 3つのポイント ~

§1 柳井遠崎の俵物問屋の鍵屋秋元家は、月性の妙円寺とは指呼の間にあり、風雲急を告げる乱世に果敢に打って出た月性を物心両面から支えた豪商であった。特に一歳下の秋元晩香は豊前の蔵春園でも共に学んだ無二の親友で、吉田松陰にも晩香についての言及がある。その秋元家には、本宅とは別に瀬戸の海を望む丘陵に「洋峨亭」なる別邸があったことが知られていたが、新たに秋元家にゆかりある方から提供された貴重な新資料によって、遠崎のこの別邸が文人墨客を迎えるにまことにふさわしいところであったことが知られる……。

§2 弱冠 20 歳の月性が、京都漢詩壇の大御所・56 歳の中島棕隠(1779-1855)に自作を呈するという挙に出たのは、通説にある天保 7(1836)年 3 月京都の洗心亭ではなく、同年秋、柳井津の甘露醤油豪商「高田家洗心亭」で催された、棕隠を招いての詩会でのことだった——“若き漢詩人”、月性の気負いと、当時の柳井商家の隆盛と教養が偲ばれる……。

月性漢詩の写本『清狂吟稿』をめぐる、広がる知見!

§3 萩の松陰神社宝物殿至誠館に所蔵される『清狂吟稿』は、明治になって刊行された月性漢詩の集大成ともいえる『清狂遺稿』の編纂過程を知る上でもかなり貴重な写本である。しかしこれと同じ筆跡で、しかも杉修道(吉田松陰実兄)の後記が付されている『清狂吟稿』巻之三が大分県中津市・耶馬溪風物館にも所蔵されていることがわかった。これを新たに玉川大学教育博物館に所蔵されていることが確認された『清狂吟稿』とも比較して、どのような詩が危険視されたかなど、これまで知り得なかった事実が明らかになる……。

※ 講演後、記者会見を兼ねて質疑応答を行います。

◆ 当日は、月性展示館を **無料** で見学が出来ます!

◆ 好評の、「文香」及び「書写」等が **無料** で体験出来ます!

入場申込・お問い合わせ ☎ 公益財団法人 僧月性顕彰会 <事務局>まで

TEL ☎ 0820-45-2211 [8:30~17:00] 柳井市役所・大島出張所